

津幡町立条南小学校

重点目標	共通項目	具体的取組	主担当	評価と観点	達成度判断基準	判定基準	評価の対象	R4後	R5前	評価	備考	取組の現状とその要因、具体的改善点	
1 確かな学力 指導力向上と学力の向上	① 共通	書くことを大切に授業(カリキュラム・マネジメント) ・Bとなる書く内容の具体を想定して授業に臨む。 ・一人も落とさないために見取りを確実に行う。 ・どの子も書けるように対話を工夫する。	学習指導部	教【努力指標】 ・自分は書くことに生かすため、対話カードを使って目的を明確にした対話を行った。 児【満足度指標】 ・対話での学びを手掛かりにして、課題に対する自分の考えを自ら整理して書くことができた。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが70%未満の場合 取組の検討・改善を 行う	教1-① 児7	86	89	B	現状: 対話場面を設定することは習慣化しており、対話を通じて取組に生かすことができている。対話カードを準備して書き表すことが十分にできていない状況が窺われる。 原因: 対話の目的意識が不明確。対話で場が整理できていない。児童が書くための手際を見取って確認することができておらず、正確な筆順が身に付いていない。 具体的改善策: ①書き表すカードの書き方を授業の冒頭から明示し、目的を明らかにした対話場面を設定する。②児童が書いたものを教員で確認し、次の指導に生かす。		
		授業後半の深い学びの充実 授業後半に、思考を深める発問(津幡町学びを育む部会を活用)や適用問題、活用問題を行い、一人一人が1時間の評価規準を達成できるようにする。	学習指導部	教【努力指標】 ・自分は想定したB基準が達成できるように書かせて見取った。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが70%未満の場合 取組の検討・改善を 行う	教1-②	96	87	B		現状: 授業の課題に対する交流場面での対話に力が入っているが、授業後半での深い学びに半立ってしまっている。 原因: 授業前半・中盤での対話場面が中心となり、タイムマネジメントの関係からも、後半に深まりをたせる授業展開となっていない。 具体的改善策: 授業後半の学習の意図に関わる対話場面を取り入れる。	
		学力向上プラン、評価問題等の活用 ・基礎基本の定着と活用力の向上のために、学年でそろって、評価問題を取り組み、授業で力がついたか検証していく。 ・学年会で朝星学習の計画を立て、複数回実施、解説をどの子にも確実に力をつける。	学習指導部 学年会	学力向上プラン検証問題 各学年期待正答率 教【努力指標】 ・朝星学習で時間いっぱい、解説まで行った。 ・評価問題でできるまで複数回取り組んだ。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが70%未満の場合 取組の検討・改善を 行う	教1-③	96	100	A		現状: 朝・星学習において活用問題に取り組め、解説を確実に持っている。同じ問題に複数回取り組み、児童は自信をもって答えようとしている。 原因: 学年会において、朝・星学習の内容や担当を確約し、計画通りに取り組んでいる。 具体的改善策: 継続して計画的に取り組むとともに、別々の教科書を見極め、適切な問題に取り組ませようとする。	
		家庭学習の充実 予習、復習、自学ノートの推進 家庭読書平日(特に水曜日)15分以上、週末読書を推奨する。 「わたしの本だな」を週1回提出する。	学習指導部 学年会	教【努力目標】 ・よい自学ノートの紹介を理由を付けて行った。 児【努力指標】 ・自学ノートで予習復習をがんばった。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが80%未満の場合 取組の検討・改善を 行う	教1-④ 児12	88	84	B		現状: 教員A+B評価64%(A42%)、児童A+B評価70%(A42%)となった。自学ノートの良い例を図鑑に掲示した。 原因: 進んで取り組む機会を保障したり、教師から勧めたりする動きが弱いためと考えられる。 具体的改善策: 朝・星学習の取り組みを強化し、児童が主体的に自学に取り組める取組を検討し、実施する。	
GIGAスクール構想実現に向けた取組の推進	⑤ 共通	クロームブックの効果的な活用 ・授業の対話場面でICTを日常的に活用する。 ・日常的に研修会を実施し、全職員の授業での効果的な活用を広め、積み重ねる。	GIGA推進チーム 学習指導部	教【成果指標】 ・「青囲み」授業の対話場面でクロームブックを日常的に活用した。 ・毎月の活用ツールを効果的に授業で活用できるよう、学年会等で実践を交流した。 児【満足度指標】 クロームブックを使った授業はわかりやすい。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	70%未満の場合 取組の検討・改善を 行う	教1-⑤ 児2	95	97	A	現状: 毎月、GIGA校内研修を行い、活用方法や取組などなどを紹介する機会を設定した。紹介した活用方法を月目標に設定する。 原因: 研修会に活用しようという意識はあるが、半年や教科によって活用し、差が生まれる。 具体的改善策: 教師間の研修を確約するために、これまで研修研修会に組み込むことと、研修会を通して、授業実践や学習のねらいに合う活用ができるようにしていく。		
小中の一貫した指導を見据えた、英語教育の充実		⑥ 共通	コミュニケーションの基礎を育成する英語科の授業づくり ・児童用デジタル教科書を効果的に活用する。 ・3観点を踏まえた段階的な指導方法を工夫する。 ・can-doリストを活用して基礎基本を確実に身につける。	学習指導部 外国語担当	教【努力目標】 ・外国語・外国語活動において、単元の途中と終わりにcan-doリストを活かした振り返りを行った。 児【満足度指標】 デジタル教科書を使った英語の学習はわかりやすい。	A: 回答が 80%以上 B: " 70%以上80%未満 C: " 60%以上70%未満 D: " 60%未満	60%未満の場合 取組の検討・改善を 行う	教1-⑥	100	100		A	現状: 単元目標を踏まえて計画的に授業を実施し、得意で得意でない、また、can-doリストを活用した振り返り授業を作成し、それ活用すること、授業で児童が自分の学習状況を把握し、振り返りを行い、目標を見直し、達成感を味わうことができるように工夫している。 原因: 振り返りの習慣は身についているが得意な得意でない、児童の振り返りではなく、活動の振り返りをしていく。児童用デジタル教科書の活用が十分でない。 具体的改善策: 単元目標を踏まえて、授業準備を充実させ、児童は主体的に振り返り、達成感を味わう。また、振り返りの内容を学習の振り返りとして活用し、児童用デジタル教科書を活用して授業で活用する。
2 豊かな心 生徒指導の充実	① 共通	ルールの徹底 ・毎月の生活目標を達成できるように進捗状況を「見える化」し、学級児童や全校児童に共通指導する。 ・児童会と連携した取組を行い、児童主体の取組となるようにする。	生徒指導部 学年会	児・保【成果指標】 ・あいさつを自分からできる。 ・きまりを守って生活している。 教【努力指標】 ・手本となるあいさつを率先垂範している。 ・毎月の生活目標について、学年学級の別なく、児童へ賞賛、注意の声掛けをしている。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが80%未満の場合 取組の検討・改善を 行う	児13 教2-② 教2-①	92	93	A	現状: 決まりを守る意識や振舞いをする意識はあるが、なかなか実行できていない児童が多い。 原因: 決まりに対しては、教員が作っているから自分から守らない、または決まっている時は意識が薄れる等が要因として挙げられる。教員に関しては、どのような場面でもどのように振舞うべきかについて意識が低い。 具体的改善策: 決まりに関しては、定期的な振り返り⇒改善⇒実践を繰り返して行う。 原因: 教員が実行しているつもりでも、児童にとってはもっと求められたい、みんなに認めてほしいと感じていない児童がいる。 具体的改善策: Q1指導で子どもがことをと、児童一人一人の特性に合わせた声掛けを意図的、審美的に行う。		
		リレーションの構築 (重点目標) ・ナイスレター、いいことみつけの取組を継続して行う。 ・努力を認める言葉かけを意識して行う。	生徒指導部	児・保【成果指標】 ・学校へ行くのが楽しい。 ・学校へ行くのが楽しいと言っている。 教【努力指標】 ・ナイスレター、いいことみつけを率先垂範している。 ・学年学級の別なく、児童への賞賛・注意の言葉かけを行っている。 ・年間5回以上、人間関係づくりに関する活動を行った。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが80%未満の場合 取組の検討・改善を 行う	児1 保1 教2-②	97	96	A		現状: ナイスの伝え合い、確定的グループエンカウンターによって楽しく過ごしている児童が多い。しかし、Q1や意図的アンケート結果から自己肯定感の低い児童もみられる。 原因: 教師が実行しているつもりでも、児童にとってはもっと褒められたい、みんなに認めてほしいと感じていない児童がいる。 具体的改善策: Q1指導で子どもがことをと、児童一人一人の特性に合わせた声掛けを意図的、審美的に行う。	
		授業での生徒指導の3機能 生徒指導の3機能(自己決定・共感的人間関係・自己有用感)をもたせることができたかセルフチェックする。	生徒指導部 学年会	教【成果指標】 ・毎月、生徒指導の3機能についてセルフチェックを行い、PDCAを意識して実践する。 児・保【満足指標】 ・授業は分かる。 ・授業は分かると言っている。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが80%未満の場合 取組の検討・改善を 行う	教2-③ 保3 児2	95	91	92		A	現状: 全職員が意識して取り組んでいる。C-Dの評価が低い。ただし、Bの評価が高い。また、児童の振り返り結果から、授業で授業し、それを受けて向上しようとする児童が多い。 原因: 定期的な振り返りや振り返り結果から授業で授業し、それを受けて向上しようとする児童が多い。 具体的改善策: BをAにするための方法を職員会議で提案する。項目の中には素人であってもよいものもあるため、意識を高めるための呼びかけを行う。
		特別支援教育の充実 ・通常学級における個別の支援の必要な児童、交流児童へ合理的配慮を積極的に行う。 ・ユニバーサルデザインの授業に行う。 (黒板に授業以外の物は貼らない、色チョークの分類、明確な指示等)	特別支援教育 コーディネーター 学年会	教【努力指標】 ・合理的配慮が必要な児童には、担任が1時間に複数回直接関わる。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが70%未満の場合 取組の検討・改善を 行う	教2-④	96	100	A		現状: 全職員が意識して取り組んでいる。 原因: 教科の特性によるが、構造的な文章や視覚的な情報が多い。 具体的改善策: 今後も継続して、声をかけることを意識し、構造的な文章や授業の見通しができるような視覚的支援をしていく。	

令和5年度学校評価前期

津幡町立条南小学校

重点目標	共通項目	具体的取組	主担当	評価と観点	達成度判断基準	判定基準	評価の対象	R4後	R5前	評価	取組の現状とその要因、具体的改善点
2 豊かな心 生徒指導の充実	⑤	道徳教育の充実 ・「考え議論する道徳」を実践するため、授業後半に価値について考え、思考を深める発問を行う。 ・わらいと内容項目について自分自身を見つめる場を設けた。	道徳推進教師	教【成果指標】 ・道徳科の授業の後半で、思考を深める発問を取り入れ、価値について自分とのかかわりで考えを深めた。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが80%未満の場合 取組の検討・改善を行う	教2ー⑤	100	100	A	現状: 教員のA+B評価は100%、A評価は53%であった。 課題: 児童が道徳コーナーで活動した。今年度も継続して校内のICT等道徳教育について共通理解を深めたことで、思考を深めるための発問やICTの活用方法について共有することができた。 具体的改善策: 今後も引き続き、道徳コーナーの掲示や道徳通信等を通して、思考を深めるための発問や効果的なICTの活用方法について共有していく。
3 自分から動く 特別活動	①	学級活動(1)(2)話し合い活動の充実 司会、記録を立て、提案された議題についての話し合い活動を指導し、行動決定し、実行する。	特活指導部	児【成果指標】 ・学級での話し合い活動に進んで参加することができた。 教【努力指標】 ・月1回程度、学級活動で司会・記録を立て、話し合い活動を行い、話し合いの技能を指導した。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 80%以上 D: " 70%未満	A+Bが70%未満の場合 取組の検討・改善を行う	児17	86	89	B	現状: 児童は話し合い活動に進んで参加できたと感じているが(教師は月①の話し合い活動の指導ができたと感じている割合がやや減少している。 課題: 児童が話し合いの学習の話し合いの型などが教師側に浸透していない。 具体的改善策: 司会、記録を立てた児童生導の話し合いの型等を児童、保護者から提案する。また実行できたかどうかの振り返りを3週目の学年会に行う。
	②	児童委員会活動、係活動の充実 ・常時活動を自分から行うことにより、責任感を養う。 ・創意工夫ある活動に挑戦させる。 ・児童が児童会目標を意識して課題意識をもつことができるように促す。	特活指導部	児【成果指標】 ・責任をもって常時活動を行い、みんなのためになる活動を工夫できた。 教【努力指標】 ・責任感を持たせるための指導・評価を行い、創意工夫する活動の場を設けた。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが70%未満の場合 取組の検討・改善を行う	児16	94	91	A	現状: 児童、教師ともに9割以上が委員会活動に意欲的に取り組むことができた。 課題: 委員を中心にお互いに関わり合いを深め合っているが、常時活動が忘れられている児童には、積極的に児童同士で関わり合うことができていない。 具体的改善策: 6年生は通年で委員会所属になったため、2学期以降に創意工夫する活動や課題に取り組むための指導を行う。また、児童会活動や委員会活動の準備等の準備を大切に指導を継続していく。
4 じょうぶな体 健康・安全・体力向上	①	安全教育の徹底 ・安全教育年間計画及び状況に応じた安全指導を行い、指導したことは週案に記載する。 ・児童の危険予知能力、危険回避能力を培う。	健康安全 学年会	保【満足度指標】 学校は安全指導を計画的に行っている。 教【努力指標】 ・活動について危険を予見し、事前に週案にメモして安全指導を行っている。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが80%未満の場合 取組の検討・改善を行う	保12	96	98	A	現状: 保護者は学校で安全指導を行っていると感じているが、教師の中には安全指導を行っていることができないと感じている人もある。 課題: 児童が安全指導を受けていると認識しているが、事前に週案にメモしての指導が十分できていないと考えられる。 具体的改善策: 安全指導に関する取組を、事前に週案にメモしての指導することによって週案にメモをするよう声をかけるとした学年会に組み込んで検討したりするようにする。
	②	体力づくりの全校取組 水泳・マラソン・なわとびの全校取組、遊び、スポチャレの取組を通して体力向上を工夫する。	体育担当 学年会	児【成果指標】 ・外遊びや身体を使った遊びをしている。(運動習慣) 教【努力指標】 ・授業等で週1回は課題克服への準備運動(ストレッチ・走る運動)を取り入れている。	A: 回答のA+Bが80%以上 B: " 70%以上 C: " 60%以上 D: " 60%未満	60%未満の場合 取組の検討・改善を行う	児18	87	91	A	現状: 教員のA+B評価は100%、児童は91%と高かった。 課題: 体育担当が指導を行うことで教師間の指導力差等を意識して取り組むことができたと考えられる。 具体的改善策: 2学期以降にマラソン・なわとびなどの取り組みがあるため、今後も取り組みが継続できるように定期的に実施できるように指導を行う。持ちも40%などでも評価を行う。
	③	正しい姿勢・黙々掃除の徹底 ・正しい姿勢の重要性について学ぶ機会を増やし、日常的に姿勢を意識させる。 ・美しい環境を作るため、掃除の時間は黙って、一生懸命掃除をする心と態度を育てる。	健康安全 学年会	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが80%未満の場合 取組の検討・改善を行う	児9	84	87	B	現状: 昨年度より黙って掃除ができていないと感じている児童・教師が多くなった。姿勢も意識することができていないと感じている児童が多くなった。 課題: 6年生と担任教師が連携をとりながら、掃除に取り組むことができていない。 具体的改善策: 掃除は引き続き、6年生を中心に取り組む方について指導を行う。また、掃除の時間には、児童会・保護者委員会でも姿勢に関する取組を行い、姿勢よく学習することの長について伝えるようにする。	
5 つばたを愛する心家庭・地域連携	①	読書活動の充実 図書館利用指導計画を活用し、教科学習と関連づけた図書館利活用を行う。	図書担当 学習指導部	児・保【成果指標】 ・平日読書15分(水曜日を中心に)、週末読書を家でしている。 教【成果指標】 ・図書館利用指導計画に基づき、読書指導を行い、授業に活用している。	A: 回答が 80%以上 B: " 70%以上80%未満 C: " 50%以上70%未満 D: " 50%未満	A+Bが70%未満の場合 取組の検討・改善を行う	児10	78	80	A	現状: 児童アンケート、教職員アンケートでは、A+B評価が80%以上であったが、保護者アンケートでは37%であった。 課題: 学校では、読書の時間が確保されており、児童や教職員は読書に取り組んでいるという意識がある。しかし、保護者は読書に読書に取り組む姿が見られない児童もいるためDの割合になっていると考えられる。 具体的改善策: 今後も読書の時間や並行読書の時間等を活用して読書活動を充実させる。さらに、全校でわたしの本だなを活動に出し、家庭でも読書に励む場を確保する。
	②	積極的な情報収集 ・管理職への速やかな報告・連絡・相談 ・保護者との面談、電話等による家庭とのきめ細かな連絡・協力依頼	教務部 学年会	保【満足度指標】 学校は相談や提言に対し誠実に応えようとしている。 教【努力指標】 ・速やかな報告・連絡・相談と訪問・面談など適切な連絡・情報収集を行っている。	A: 回答のA+Bが90%以上 B: " 80%以上 C: " 70%以上 D: " 70%未満	A+Bが80%未満の場合 取組の検討・改善を行う	保14	92	93	A	現状: 読書アンケートではA+B評価が93%(A40%)、教職員アンケートではA+B評価が100%(A71%)であった。 課題: 全体的にのびのびと、大切に読書活動の学年会を中心に学年会で実施し、7割以上が読書している。さらに読書活動の推進委員会を設け、話し合う場を設けることで今後の指導に生かすこともできている。また、児童会にも読書活動に参加することで、読書活動を推進することができている。 具体的改善策: 今後も報告・連絡・相談を呼びかけ、対応に当たって、全体的に読書活動の推進委員会を中心に読書活動の推進委員会、いじめ問題対策委員会での話し合いを大切に、必要な事項については速やかに全体で共有していく。
	③	積極的な情報発信 (学習習慣・生活習慣の確立に向けて) ・参観の日を学期に2回設け、授業の様子を公開 ・来校者への明るい挨拶、教育公務員としての適切な身なり、言動、服務規律の徹底 ・便り等での広報・啓発等の取組、学級懇談での話題提供 ・積極的に地域人材、地域資源を活用する。	生徒指導部 学年会	児・保【成果指標】 ・南中校区のメディアルールを守っている。 教【努力指標】 ・家庭での協力が得られるよう、保護者への啓発や話題提供を行った。(学年だより、家庭学習、ノーメディア) ・来校者に明るいあいさつを率先垂範している。 ・教育公務員として身なりを整え、服務規律を守っている。	A: 回答のA+Bが80%以上 B: " 70%以上 C: " 60%以上 D: " 60%未満	A+Bが60%未満の場合 取組の検討・改善を行う	児23	89	90	A	現状: ネットワークの取組が保護者に行き届いていなかった。児童の自己評価は高いが、ノーメディアの取組の時のみ確認して、その他は意識せずに日々を過ごしている児童が多いように思われる。 課題: ネットワークの取組が、スケジュールを確実に保護者に届く手立てがなかった。また、お便りを出さなかった。 具体的改善策: 二学期当初、再度スケジュールを立てる。その際に、生徒指導部を配付し、保護者にも確実に届くようにする。
6 教職員の働き方改革・業務改善の推進	①	勤務時間を意識して効率よく働くことに努めている。 ・ICT活用による業務の効率化を進める。 ・平準化のアイデアを出し合う。	学年会	教【努力指標】【成果指標】 ・年間年休を5日以上取得している。【成】 ・最終退校時刻午後8時を超えないようにしている。【成】 ・学年会、4部会で役割分担して、平準化に努めている。【努】	A: 回答のA+Bが80%以上 B: " 60%以上 C: " 50%以上 D: " 50%未満	50%未満の場合 取組の検討・改善を行う	教6ー①	75	83	A	現状: A+B評価が83%(A29%)、C評価が13%となった。 課題: 昨年度よりも構造的評価が向上した。職員間には業務の平準化の取組は進んでいる。しかし、退校時刻については、午後8時を超える職員も一定数いる。 具体的改善策: 学年会、4部会での話し合いの時間を十分に確保し、ノーメディアの取組を継続し、ICTを活用し、業務の共有化等の電子化をさらに進めていく。